

地名を歩く



六十一 有漢 中村



羽場地区から東方を望む

有漢町にあった古い地名「中村」を取り上げます。

「中村」という地名は、江戸時代から明治八年（一八七五）まで使われていた村名で、上房郡下有漢村が上村（拙稿「地名を歩く」五十六参照）、中村、下村と分かれて成立していました。当時の三つの村は隆起準平原といわれる老年期の小起伏面を有漢川が侵食して流れる上流域にあった村々でありました。「中村」は北部の上村と南東部の下村に挟まれた地域で、村の境界は入りくんで複雑でした。現在、北から貞森・城下・元重・羽場・大谷の地区が当時の「中村」に当たります。江戸初期の「正保郷帳（正保二・三年一六四五・四六）には下有漢村として一〇八〇石余りと書かれています。その前の慶長（二五九六〜一六一五）の「小堀検地」（「有漢町史」）には上村四二九石余り、中村三二九石余り、下村四〇二石余りと村を分けて記されています。その後の延宝年間（一六七三〜八一）頃の

「水谷検地」（前掲書）では中村六一二石余りとあり、かなり石高が増加しています。

水谷時代には松山藩の産業経済が発展した時期だったのです。そして元禄八年（一六九五）の「新検高」（前掲書）では、中村八一二石余りとなっていて石高が一層増加して、地域農民の負担は増大し、生活が一層苦しくなつたため、訴状を出して抗議し、幕府へ越訴（手続きを踏まず、直接上級の役所へ訴えること）をしています。

中村は、延享元年（一七四四）までは、松山藩領でしたが、同年から有漢の中村・下村は中津井陣屋（現真庭市中津井）伊勢亀山藩の「備中国御残領」となり、残り一〇一〇石余りが松山藩領となつて村の様子が変化しています。

「備中村鑑」に、「石川主殿頭様、御陣屋中津井として、八一石余り、上房郡中村大庄屋 綱島宏一郎」と記しています。幕末になつて「天保郷帳」（天保五年一八三四）には、下有漢中村と

して同じく八一石余りと書かれています。天保一三年（一八四二）の家数は九〇でした（「有漢町史」）。その後明治八年（一八七五）に下村・上村と合併して有漢村となっています。

貞守地区の南には、「有漢富士」と呼ばれる信仰の山、権現山（五九九メートル）があり、権現様も祀られ、以前大蔵山真光寺はここにあつたといわれています。また、城下地区には、二〇〇メートル前後の台地状の丘に秋葉三郎重信が承久の乱（承久三年一一二二）の功により地頭職を与えられ有漢郷を賜つた頃に築城したと伝えられる台ヶ鼻城址があります（拙稿「地名を歩く」二十四参照）。「上房郡誌」)。そのすぐ南の元重地区の山中には秋葉氏の家臣之墓といわれる天正年中（一五七三〜九二）の墓石が残っていて、中世有漢の歴史を偲ばせてくれます。また、有漢川の右岸の南向斜面に集落が開ける羽場地区は、昔、多和山峠への道と上有漢

方面への道との分岐点となつたところで、交通の要地でありました。山麓には江戸時代、代々庄屋を勤めていた綱島屋敷の跡が残っていて井戸や古い様式の石垣（穴太積）を思わせるや古い墓地が残っています。また、その南

西の多和山峠への往来に沿つて大谷地区があります。多和山峠は古くからの交通の要衝で沢山の人が往来した峠らしい峠でした。茶店や宿屋もあつてにぎわつたといわれています。今でも牛馬安全供養の碑などが残っています。山間の地形を表わす迫地名も多く、「八迫」といわれる迫で知られています。

「中村」という地名は、上・中・下とか前・中・後など位置関係を示す地名として日本ではよく使われています。「中」は有漢川の上流・中流・下流と分けて地理的中央とか三分割の中央などを意味していて、「中流にある村」「真中にある村」を表わす村名で、分かりやすい地名の一つです。

（文・松前俊洋さん）



クリスマスイルミネーションにお越しくささい

吉備国際大学では、毎年12月になるとジャンボクリスマスツリーを設置し、夜にはクリスマスイルミネーションを点灯して皆さんに楽しんでいただいております。今年も12月3日(木)から点灯することになっています。

点灯初日には、学友会執行委員会と同窓会が協力し、クリスマスイルミネーション点灯式を開催します。当日は、学生がバンドやストリートダンス、手話歌、ビンゴゲームなど、多彩なイベントを企画して盛り上げます。また、小学生以下のお子さんには、クリスマスプレゼントも用意する予定です。皆さんのお越しを心よりお待ちしております。



吉備国際大学クリスマスイルミネーション点灯式

日時：12月3日(木) 午後6時30分～

場所：吉備国際大学

内容：吹奏楽部の演奏会、ストリートダンス、手話サークルによる出し物、ビンゴゲームほか

※数に限りがありますが、ホットドリンクやパンの無料配布、クリスマスプレゼントも準備中です。お楽しみに!!

【お願い】車でご来場いただけますが、駐車場が少ないため、できるだけ乗り合わせでお越しくささい。

■問い合わせ 吉備国際大学学生課 (TEL) 27420

編集後記

11月3日、平川^{すまわ}鋤崎八幡神社大祭の取材に行きました。600年前から続いているとされる渡り拍子は、地区の住民みんなで取り組んでいる様子がかがえ、感激しました。

翌日、平川在住の人と話をする機会がありました。「みんなで力を合わせて楽しみながら取り組んでいます。いろいろ大変なことはあるけど、この祭りを維持する、誇り、みたいなものが、暗黙の了解で平川の人の心に宿っており、子どもたち

も、それをちゃんと分かっています。地域の皆さんが楽しんで生き生きとしている姿が共感を呼ぶよう、見物に訪れている人たちが口々に、いい祭りだと感想を言ってくれたり、それがまた平川人は嬉しくて、祭り維持の原動力になっているんです」と語ってくれました。

気持ちのよい取材でした。皆さんも機会があればぜひ訪れてみてください。

(TM)

まちの伝言板

クリスマスふれあいチャリティーコンサート



高梁市青年経済協会 貝原 尚さん(37)

クリスマスの夜、高梁キリスト教会堂にハンドベルの音色が響き渡ります。

「ハンドベルの夕べ・神聖なる響き」天使のハーモニー」と題して行われる今年のチャリティーコンサート。高梁市青年経済協会が毎年開いているもので、今年が10回目。昨年に引き続き、ベルクワイア岡山がクリスマスにちなんだ楽曲を演奏する予定です。ピアノ演奏や声楽も披露されます。コンサートの後半では、来場者に

ハンドベルの体験をしてもらおうと思っています。子どもたちにも体験してもらいたいです。ぜひ家族連れでご来場ください」と貝原さん。

なお、当日、来場者から寄せられた募金は、市内幼稚園などに配布する絵本購入に当てられる予定です。

詳細は次のとおり。

▽日時：12月12日(土)

午後6時開演

(午後5時30分開場)

▽会場：高梁キリスト教会

※入場は無料で事前の申し込みも不要ですが、席に限り(120席程度)がありますので早めにご来場ください。

■問い合わせ 高梁市青年経済協会・貝原さん (TEL) 27459